

三野 新聞

第11号 平成16年8月

発行:ひとつの志(三野由美子)
〒251-0035
藤沢市片瀬海岸3丁目15-6
HP:<http://y-mino.net>
E-mail:mino@y-mino.net



「市議会12年ぶりのこと」
とは? (詳細は裏面に)

藤沢市議会議員

三野由美子 みのゆみこ

・文教常任委員会副委員長
・行政改革等特別委員
・会派「ひとつの志」・無所属38歳
プロフィール:早稲田大学商学部卒/
元電通ヤング&ルビカム(株)社員/国体
ヨット競技2回出場/1987年ウインド
サーフィン全日本選手権第3位/若い
市長と改革の会理事

市民生活の広範囲にかかわる 「次世代育成支援計画」。 藤沢市の行動計画策定は?

一般質問のテーマは、次世代育成、教育、文化

6月8日(火)から24日(木)まで、藤沢市議会6月定例会が行われました。私の一般質問のテーマは「次世代育成支援計画」、「教育」、「文化財の公開とまちづくり」についてです。特に、次世代育成支援対策推進法に基づく市町村行動計画策定については、市のアンケート調査がまとめられたばかりで、高齢者福祉や総合計画の見直しと合わせて今後の進め方に注目しています。

【次世代育成支援計画策定は、幅広い市民の意見を!】

計画策定のためのアンケートの回答者は約9割が「母親」でした。地域での子育てを考えるためには、協力者となる父親やその他の家族、家族以外の人意見も調査するべきです。また、市の子ども関係のサービスについて「必要があるのに利用しなかった、又は、できなかった」人たちの意見も必要だと考えます。小規模でも何らかの形で追加の調査をするか、別の資料等を活用するなどして補うべきだと質問の中で提案しました。

さて、今年度藤沢市では「高齢者保健福祉計画2007」「総合計画2020基本計画」の見直しを行う予定です。それらと次世代育成支援計画との関係はどうなるのでしょうか。

三野:高齢者福祉は在宅サービスや地域での支援に重点を置くという方針であるので、少子化という背景や子育て支援の推進を考慮せずには進められない。次世代育成支援計画策定にあたって、総合計画や高齢者保健福祉計画見直しとの関係は?

久世助役:総合計画2020を基本に高齢者保健福祉計画や児童育成計画等の個別計画の内容調整をするともに、男女共同参画の市民アンケート等を参考にした広範囲の支援策としたい。

福祉健康部の管轄内にとどまらず、教育や生活環境整備まで含まれ、庁内を横断して策定される計画です。「行政の縦割りを排除し、国からも通知されている『基本理念の設定』をしっかりと行って、全国的にも優れた計画を策定されるように」と述べました。

政治活動資金報告(平成16年4月1日~6月30日)

政治活動は一体何にいくらかかるのか、毎号報告してまいります。

支出	(円)
備品費(机・椅子)	26,040

政治資金の残り、あと 897,487円 自己資金1,500,000円からスタート! 政治献金は一切いただいておりません。

【学校評価とその公開、学校づくりへの取組は?】

次世代育成支援のアンケートの中に「塾や私立校に通わせるためにお金がかかって困る」「公教育のレベルアップを」といった意見が見られました。学校評価検討委員会の報告や「学校教育藤沢ビジョン」では「学校の特色づくり」と情報の公開にも触れられています。具体的にどのような考えなのか質問しました。

三野:取組を進めている学校評価は、「学校づくり」にどのようにつなげるのか。評価が公開され学校の特色が明確になると、学校を選択したいという声も上がるのではないかと。選択制に対する考えは?

小野教育総務部長:学校教育目標の設定、教育活動の公開、内外の評価により、信頼される学校づくりを目指す。学校評価で課題や問題点を把握・分析し、学校改善、特色ある学校づくりへつなげる。地域の学校づくりを進めるので選択制の考えはない。

三野:「魅力ある学校づくり」のための事業を推進している自治体があるが、藤沢での取組は具体的にどのようなものであるか。

小野部長:三者連携事業、教育課程推進事業を行っている。後者は各校20~26万円、総額1,200万円を一律に配当し、地域の方とのふれ合い交流や体験活動が報告されている。

「学校の特色を打ち出してゆくと、格差が生まれ公平でなくなる」という否定的な意見がありますが、不公平感は「選択」できるようにすることで程度解消できると考えます。

また、教育課程推進事業では、何にいくら使われて、どのような成果効果があったかという報告は求めているのですが、これでは学校への単なる「ばらまき」になってしまいます。厳しい財政状況の中で予算を割いたからには「成果」をしっかりと把握し、次年度でのさらに効果的な活用につなげてゆくように要望しました。

5月27日、会派視察で学校選択制を導入している千代田区教育委員会の方のお話を伺いました。学校の統廃合や、小学校から公立中学に進学する率が年々低下する現状を、「学校危機」と捉え、魅力的な学校づくりのために「学校活性化支援事業」を実行しています。活性化のための計画を各校の先生方がつくり、(裏面へ)

校長先生が区民やPTA等から構成される委員にプレゼンテーションし、評価の高い計画に補助を出すというものです。「魅力的な公立校にして危機を乗り切らなくては」とのお言葉には切実な思いが感じられました。

また、日経新聞が行ったインターネット調査によると、公立校を選ぶ理由は「学費が安い」、私立校を選ぶ理由は「教育水準が高そう」で、私立校は公立の約3倍の学費がかかるそうです。「地域との結びつき」も大切ですが、市民からも求められている公教育の充実とは、基礎学力をしっかりとつけられる「教育水準」ではないでしょうか。現在問題になっている「ゆとり教育」ではなく、子供たちと保護者の時間的、経済的、精神的な「真のゆとり」が、そこから実現可能になるはずです。私は高校まで自分が受けた公教育に感謝しているだけに、その特色が「学費が安い」だけになってしまうのはあまりにも悲しいと思いました。

教育過程推進事業は、学校づくりのために努力された先生方や学校をサポートできるような事業に見直してゆくべきです。「公教育の充実」を求める声を更に掘り下げ、学校評価を推進し、学校選択制も視野に入れた、進んで選ばれるような学校づくりに向けて改革を進められるよう要望しました。

【ハコ物先行にならない「文化財の公開」による市民参加とまちづくりを！】

市では将来的な博物館の整備に向けて博物館準備担当が設置されておりますが、厳しい財政状況の中では具体的建設までは長い道のりとなる見込みです。しかし、市が20万点を超える文化財(市民の共有財産です)を所蔵していることや、例えば鶴沼公民館で行われた「長谷川路可展」の資料の充実度や、運営委員の方々による市民参加の地域力等を見て、「文化財の公開」はまちづくりという視点で検討を進めるべきではないかと考えました。

三野: 以前教育長が検討していると述べた「公開型保管施設」とはどのような構想か。既存施設での公開について、有料展示も含めどのような方針か。近年注目されている文化財の公開と市民参加についての考えは。経済効果や新たな財源として、また、全国的にも「まるごと博物館」といった地域活性化事業が増えている中で、文化財の公開を核としたまちづくりについての考えは。

西山生涯教育部長: 公開型保管施設は保管や展示以外の機能との関連、規模、運営管理などを総合計画の見直し作業の中で検討する。収集資料は刊行物で公開し、本格的な施設がないという制約の中で、電子博物館「みゆネットふじさわ」等で completing。有料化は他市町村の事例研究などで検討する。市民の資料収集や公開活動へは要請に応じて支援。博物館具体化の折には地域に根ざした市民参加も充分検討したい。市内それぞれの地域の文化財や歴史資料を生かしてまちづくりが進められるべきと考える。

三野: まちづくりや都市経営について文化財の公開やフィールドミュージアムということと考えると、生涯学習部だけではなく産業育成、観光、教育などといった広範囲での

取組が必要になってくると考えるが、市長の考えはどうか。

山本市長: 藤沢の文化をアピールすることで、来訪者による経済効果にも期待できる。課題の一つである遊行寺開山忌の復活は生涯学習部、経済部だけではなく企画部での研究も必要。今後は藤沢の持ついろいろな資産を生かしたまちづくりを進めたい。

松山市では小説「坂の上の雲」をテーマにした歴史文化散策のフィールドミュージアム構想が政府の地域再生計画に認定されました。経済効果は1040億円、誘発雇用者数は1万人を見込んでおり、「ミュージアム」という言葉からハコ物行政や財政圧迫を連想するような意識は変えるべきだと感じました。慶応大学の上山教授も著書の中で「ミュージアムの間接経済効果は1.4倍で、公共工事を上回る」と述べられています。将来的な施設の整備においてもハコ物先行ではなく、市民参加、経済効果や都市経営という点を十分に研究し、うまいのあるまちづくりを目指すべきです。

「ひとつの志」が行った「藤沢市議会12年ぶりのこと」とは？

平成16年度補正予算案について会派「ひとつの志」で充分議論した上で、定例会中の総務常任委員会と本会議に修正案を提出しました。

「畜糞、剪定枝、生ゴミから堆肥生産を行う(仮称)『有機質資源再生センター』建設のための11.4億の債務負担行為を認めることができないので削除を求める」という内容です。理由は、計画に関わる耕種農家、畜産農家、住民、消費者等の中で十分な話し合いができていないこと、住民や議会への市の説明が不十分であること、市の農業への理念が確立していないことです。

会派4人全員は、このまま多額の税金が投入されて計画が進められれば、経営や苦情等の問題が生じる可能性が非情に高いと判断しました。修正案は多数決によって委員会、本会議ともに否決されましたが、市政をチェックする立場として、また、是々非々の考えを掲げて結成した会派として、今後もその姿勢は変わりません。

10号でご報告した政務調査費収支報告の内訳に間違いがありました。ここにお詫びして訂正いたします。(総額の訂正はありません。)'図書、雑誌、新聞等の購入に関する経費(誤)204,893円(正)252,006円'、'会派で雇用する職員の人件費等に関する経費(誤)57,613円(正)10,500円'

編集後記 千代田区役所視察では教育の他に、テレビでもおなじみの罰則つき生活環境条例の取組み、議員に支給される政務調査費のあり方、発言議員の名前や議案番号も掲載されているわかりやすい議会報の計4テーマについてお話を伺いました。ポイ捨て防止の生活環境条例については何度か議会でも質問しました。市民の声もあり、社会の要請でもあると思うのですが、市としては県でやるべきだという姿勢です。海岸での深夜花火禁止条例も鎌倉で制定されたことを受けて質問しましたが、今夏藤沢では「研究中」の段階にとどまっています。周辺自治体と比べて、相対的に生活環境が悪化しているのは、まちの価値や、藤沢市に住んでいることへの満足度もどんどん下がってしまっています。生活環境の悪化は犯罪にもつながります。千代田区で購入した路上喫煙にNO! ルールはマナーと呼ぶか」という本を読みました。生活環境条例施行の苦労と成功の記録ですが、「まちをきれいにしたい」という私の思いを応援してくれる本であり、今後の取組に向けて力づけられました。